

平成30年度米原市埋蔵文化財活用シンポジウム

# 遺跡はまちの宝もの

## ― 杉沢縄文遺跡の発掘を通して ―

米原市では2011、2012、2017、2018年度にかけて、立命館大学文学部(矢野健一教授)と合同で、米原市杉澤にある著名な縄文時代の杉沢遺跡の発掘調査に共同で取り組んできました。

杉沢遺跡では、昭和13年(1938)の発掘調査による2組の合せ口土器棺をはじめ11組の土器棺墓が出土しています。また、御物石器など中部地方縄文晩期特有の石器類が集落内の広範囲で採集されていて、縄文晩期の集落が長期間継続していることがわかっていました。

このことを踏まえ、調査の目的を縄文時代の住居の検出に重点をおいて実施しました。結果的に住居跡の検出には至っていませんが、多くの成果と今後の見通しを得ることができました。

また、調査には地元・杉沢区と区民の皆さんの全面的なご支援をいただき、学生たちが地区の方々と関わりをもって調査を進めることで、発掘調査の活性化にもつながりました。夏祭りでは、学生がスタッフとして参加し、発掘調査の状況や目的が紹介されました。地域や学校を対象とした発掘体験では「考古学」を肌感じてもらうという、普段の生活では得られない体験をつうじて、遺跡の保存や伝承にもつながっていく調査になりました。さらに、考古学と美術の共同プロジェクトとして、リアルタイムで掘り出された遺物の出土位置を空中に再現展示され、遺跡と遺物の現実的な存在感を観覧者が実感する取り組み「芸術と考古学」time, timer, timeset「夏休みの遺跡」が展開されました。

今回のシンポジウムでは、杉沢遺跡の調査成果、美術と考古学の共同、そして地域とのつながりなどを通して、遺跡(埋蔵文化財)と地域との協働の可能性をさぐり、今後の展望につなげていきたいと思えます。

日時 平成31年3月3日(日) 13:00～16:45  
会場 米原市伊吹薬草の里文化センター2階  
ギャラリー「かくとだに」

### 〈進行予定表〉

13:00～13:05 あいさつ

### 〔第1部〕

13:10～13:50

講演①「縄文人のエコロジーとエコノミー」  
エコロジーとエコノミー

滋賀県文化財保護協会 課長補佐

瀬口眞司氏

13:50～14:50

講演②「杉沢遺跡の発掘調査成果」  
立命館大学文学部教授

矢野健一氏

14:50～15:00

休憩  
※会場ギャラリー展示「米原の縄文土器大集合！」見学

15:00～15:40

講演③「考古学との共同プロジェクト  
― 美術家の視座から」  
美術家

横谷奈歩氏

15:40～15:55

休憩・準備

### 〔第2部〕

15:55～16:45

シンポジウム「遺跡はまちの宝もの」  
パネラー

講演者各氏

コーディネーター

高橋順之(米原市教育委員会)

※映像「杉沢遺跡に住む」(仮)の放映

# 地上と 地中に 残る 行動の 断片

